

病 防 第 4 3 号
平成28年7月14日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号
(斑点米カメムシ類)

平成28年度病害虫発生予察注意報第1号

平成28年7月14日
岐 阜 県

作物名 水 稲

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 7月下旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 5月第1半旬から7月第1半旬の予察灯におけるカスミカメムシ類の累積誘殺頭数は各地域で多く認められ、アカスジカスミカメが恵那市で48頭(平成15.2頭)と平成の約3.2倍、アカヒゲホソミドリカスミカメが海津市で460頭(平成270.9頭)と平成の約1.7倍であった(図1、2)。
- (2) 7月上旬に県内48地点で行ったすくい取り調査では、35地点(約73%)の畦畔で斑点米カメムシ類が確認された(表1)。
- (3) イネ科雑草が優占する畦畔では、カスミカメムシ類が多数確認されるほか、山際部や中山間地域では、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシといった中～大型の斑点米カメムシ類の生息が顕著に認められた(表1)。
- (4) 名古屋地方気象台の1ヶ月予報(7月7日発表)では、気温は平成より高くなると予想されており、斑点米カメムシ類の繁殖に好適な条件となる。

5 防除上の注意事項

<水田および畦畔の管理>

- (1) 斑点米カメムシ類は、出穂期以降に水田に侵入する。コシヒカリは7月下旬に出穂が始まるため、防除時期を逸しないよう留意する。
- (2) 斑点米カメムシ類の生息密度を低減させるため、畦畔、農道ぎわ、水路ぎわ、休耕田、および水田周辺などの除草を地域全体で一斉に行う。特に、イネ科雑草は好適な餌植物となるため出穂させないように管理する。
- (3) 水稻の出穂直前および出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込み、被害を助長する恐れがあるので出穂10日前までに実施する。

- (4) 水田内のヒエ類等は好適な餌植物となるため、水稻が出穂する前に除去する。
- (5) ミツバチが飼養されている地域で薬剤防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。

＜薬剤による防除＞

- (1) 散布剤による防除は穂揃期およびその7～10日後の2回実施する。
- (2) 粒剤による防除は出穂期の7～10日後が基本となるが、アカシジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメが優先する地域では、出穂期～穂揃期に施用する。ただし、使用する薬剤により防除時期が異なるので注意する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター)

— 参考資料 —

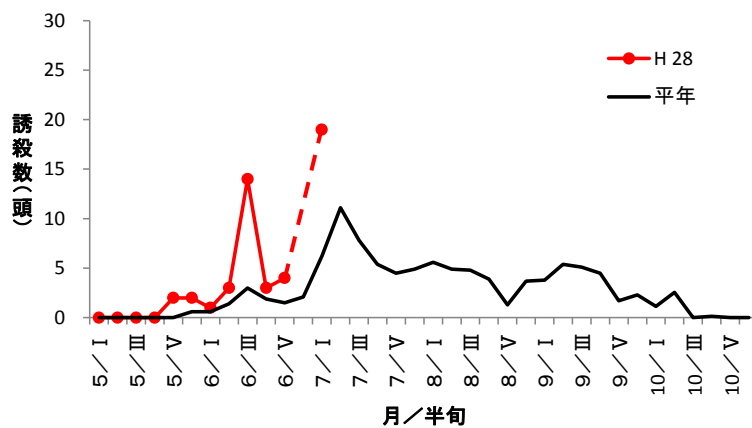


図1 アカシジカスミカメの誘殺状況（恵那市：予察灯）
注）平成28年値の破線部分は、欠測のため推測値。

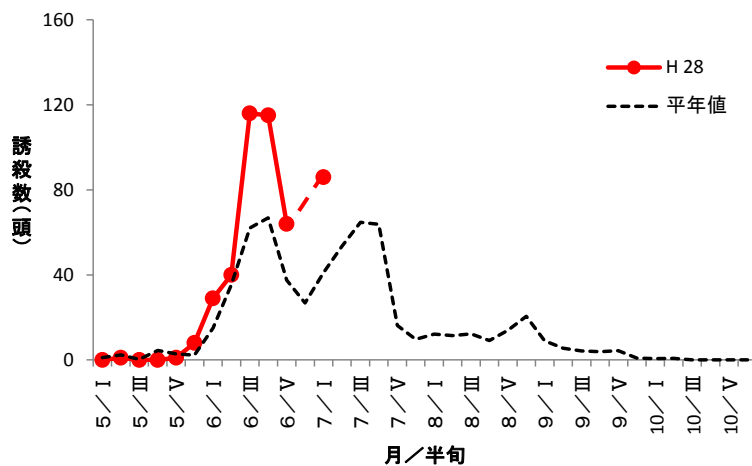


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況（海津市：予察灯）
注）平成28年値の破線部分は、欠測のため推測値。

表1 斑点米カメムシ類発生地点および主要なカメムシの種類（畦畔20回振すくい取り）

地域	調査地点数	斑点米カメムシ類発生地点数	確認された主な斑点米カメムシ類
岐阜・西濃	12	12	アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカシジカスミカメ、ホソハリカメムシ
中濃	12	10	アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモハリカメムシ、アカシジカスミカメ
東濃	12	4	ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ
飛騨	12	9	アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカシジカスミカメ
計	48	35	